

JP093 福島潟 (ふくしまがた)

新潟県：新潟市

位置	N 37° 54′ E 139° 15′
面積	163ha

環境構成【湖沼／湿地／ヨシ原／水田】

福島潟は新潟市北東部に位置する県内最大の潟湖で、湖水面積 193 haである。越後平野北部水田地帯を流れる13本の中小河川が潟に注ぎ込むため、洪水調整の役割も担っている。

湖水は放水路を通り日本海へと通じている。広大な潟を取り囲むようにヨシの群落形成され、湖面内部までモザイク状にヨシ群落が発達し、入り組んだ地形がオオヒシクイをはじめとする水鳥にとって良好な環境となっている。福島潟は北限のオニバス自生地として知られ、

ミズアオイ、ミクリ、ガガブタなどの水生、湿生植物をはじめ450種類の植物が確認されている。潟の北西側には新潟市水の駅「ビュー福島潟」など人と自然が触れ合うための公園設備があり、南側には環境省一級鳥類観測ステーションがある。



写真：岡田成弘

選定理由

A4i	ヒシクイ・コハクチョウ
A4iii	カモ類

保護指定

法的な担保がない、もしくはわずか（10パーセント未満）である

<その他>

東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ参加地

保全への脅威

- ・外来種の影響（ブラックバス、セイタカアワダチソウなど）
- ・陸地化の進行（浚渫により緩和されている）
- ・水位変動による環境変化

鳥類の個体数、生息環境の現状

- IBA サイトにおける重要な鳥類（IBA 選定基準種）の個体数の変化
変わらない
- IBA 基準種の個体数のカウント調査実施の有無：有
＜調査データの入手方法＞
生物多様性センターホームページのモニタリングサイト 1000 の調査結果より
- IBA 選定基準種の個体数に影響するような、IBA サイト内の重要な生息環境の変化：
変化はない
- IBA 選定基準種の生息環境：
普通（70～90%が最適の状態）
- IBA エリアの保全管理計画の有無：有

保全活動

- 環境管理：実施者（福島潟環境保全対策推進協議会、新潟県）
内容：新芽呼ぶヨシ焼き、福島潟クリーン作戦
植生調査、水質調査、浚渫に関する要望の提出 など（上記協議会）
浚渫（新潟県）
- 環境教育活動：
内容：自然観察会（水の駅「ビュー福島潟」、NPO 法人ねっとわーく福島潟）
探鳥会（福島潟野鳥の会、にいがた野鳥の会）
- モニタリング調査：実施者（環境省）
内容：モニタリングサイト 1000
ガン、ハクチョウ類生息数調査(越冬期)、オオヒシクイ生息調査（水の駅ビュー福島潟）、オオヒシクイ調査（NPO 法人ねっとわーく福島潟）
- 経済活動を通じた保全（エコツーリズム等）：実施者（事業による）
内容：ヨシ刈り（地元農家等個人）、潟舟体験（ねっとわーく福島潟）

IBA サイトの保全に関係する地域のグループ

- 福島潟環境保全対策推進協議会
- NPO 法人ねっとわーく福島潟
- 水の駅「ビュー福島潟」

見られる鳥

5,000羽以上のオオヒシクイが飛来する国内最大の越冬地。オオヒシクイの大群はコハクチョウ、オオハクチョウ、マガン、カモ類などの水鳥とともに湖面を埋める。秋冬期には、広

大なヨシ原や湖水面で獲物を探して飛翔するタカ類の姿を間近に観察することができる（オオタカ、オジロワシ、ノスリ、チュウヒ、ハイイロチュウヒ、コチョウゲンボウなど）。夏期にはヨシ原でオオヨシキリ、コヨシキリ、ホオアカ、カッコウなど草原性の鳥類が繁殖する。潟の南部には環境省一級鳥類観測ステーションがあり、標識による鳥類調査が行われている。福島潟ではこれまで約 220 種類の鳥類が確認されている。

夏鳥	ダイサギ、チュウサギ、アマサギ、ヨシゴイ、オオヨシキリ、コヨシキリ、ホオアカ、カワセミ、カッコウ
冬鳥	ヒシクイ(亜種オオヒシクイ)、マガン、コハクチョウ、オオハクチョウ、マガモ、トモエガモなどのカモ類、チュウヒ、ハイイロチュウヒ、ノスリ、オオタカ、オジロワシ、オオワシ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、コチョウゲンボウ

関連団体・自治体・施設等

- ・日本野鳥の会 新潟県
- ・水の公園ビュー福島潟

